

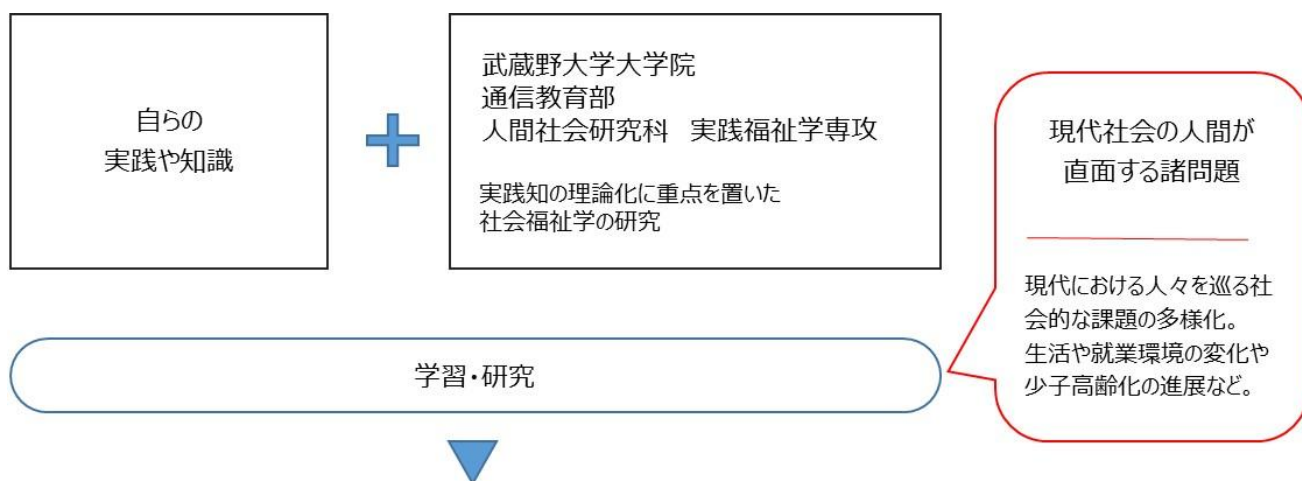
人間社会研究科 実践福祉学専攻

■本専攻の特色

近年、社会福祉を巡る制度環境はドラスティックに変化しており、これまで社会福祉の中心的課題と考えられてきた高齢者や障害者の生活介護の課題に加え、ホームレス等の貧困問題や高齢者の地域内での孤立死、児童虐待など、多様な問題が生起しています。現在、社会福祉専門職に求められていることは、今日的状況下における福祉課題や制度枠組みの変化の中で、社会福祉価値や倫理に裏打ちされた援助技法や理論を踏まえた援助の開発を行うと共に、新たな福祉社会のデザインとソーシャルアクションによる社会システムの変革を行うことのできる力量を涵養することであるといえます。

本専攻では、高度な専門知識の修得と実践知の理論化により、「人」と「社会」に対する深い洞察に基づく専門的倫理性を持ち、社会福祉の現場で必要とされる最新の各種援助技能等を習得し、指導・管理能力に秀でた社会福祉専門職業人を養成することを目的とします。社会構造の劇的な変化や不安定化に伴い複雑化する福祉問題に対して、その複雑化する問題を理論的に分析する力、実践現場と当事者支援に立脚した解決方法を導き出す各種援助技能の理論的知識の習得とその内面化、更に次世代の社会福祉組織における管理・指導についても最新の理論を習得しその実践を図ることができる力を涵養し、当該分野における現代的ニーズに応える、社会福祉のスペシャリストを育成します。

■カリキュラムイメージ



- ・修士（実践福祉学）
- ・社会福祉を巡る制度改革や多様な現代的課題に対応できる、高度の専門的職業人

■ 教育課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位			学習方法		
			必修	選択	自由	S	SR	R
実践研究基盤科目群	仏教と共生原理	1		2		○		○
	社会福祉理論研究	1	2			○		○
	ソーシャルワーク理論研究	1		2		○		○
	社会福祉制度政策研究	1		2		○		○
実践技能研究科目群	ケースワーク特論	1		2		○		○
	グループワーク特論	1		2		○		○
	コミュニティワーク特論	1		2		○		○
	スーパービジョン特論	1		2		○		○
	ケースマネジメント特論	1		2		○		○
	ソーシャルアドミニストレーション特論	1		2		○		○
	プログラムエバリュエーション特論	1		2		○		○
	チームアプローチ特論	1		2		○		○
	ソーシャルワークリサーチ特論	1		2		○		○
	ケースカンファレンス特論	1		2		○		○
調査研究指導科目群	ソーシャルワークリサーチ演習	1	1			○		
	フィールドワーク演習	1		1		○		
	特定課題研究演習 ※1、※2	2	4			○		
研究指導	特定課題研究（研究指導）	2	-	-	-	○		
開講科目単位合計		-	34 単位(必修 7 単位、選択 27 単位)					
修了要件			30 単位(必修 7 単位、選択 23 単位)※3					

※1 本専攻では2年次の必修として、修士論文にかえて特定課題研究の成果を提出します。

※2 履修前年度までに「社会福祉理論研究」及び「ソーシャルワークリサーチ演習」を修得していることが履修条件となります。

※3 特定課題研究演習について研究成果の審査及び試験に合格すること。

・実践研究基盤科目群

社会福祉の理論、制度改革の動向、最新のソーシャルワーク実践理論に関する知識を修得します。

・実践技能研究科目群

事例検討を通して実践技能を涵養します。

・調査研究指導科目群

当事者視点に立った社会福祉ニーズの抽出・分析のための調査・研究力を修得します。

■ 特定課題研究演習について

「特定課題研究演習」では、研究とその方法の修得を通して、困難事例への高い相談援助技能はもちろんのこと、ケースマネジメント力、人材育成力、他機関・他専門職との連携力、組織運営管理力、福祉資源開発力、研究力等を担保する具体的実践技能の理論化を行うことを目的とします。

特定課題として以下の3つを設定し、学生はこれらの中の1つを研究テーマとします。

- ① 社会福祉実践に関する研究
- ② 社会福祉実践に係る組織運営管理に関する研究
- ③ その他、社会福祉サービス・制度政策等に関する研究

■ 履修モデル

通信教育部人間社会研究科実践福祉学専攻(修士課程)履修モデル

学生は以下の履修モデルを参考にして、各自の研究分野及び修了後の進路に合わせた科目履修を行う。特に、下線を引いた科目を重点科目に設定し、重点科目を中心とした調査・研究を行う。

モデル	1年次必修	1年次選択 ※(太字は各モデルにおける重点科目)			2年次必修・選択	修了後の進路		
		実践研究基盤科目群	実践技能研究科目群	調査研究指導科目群				
モデル1	社会福祉理論研究、ソーシャルワークリサーチ演習	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教と共生原理 ・ソーシャルワーク理論研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョン特論 ・ソーシャルアドミニストレーション特論 ・チームアプローチ特論 ・ケースワーク特論 ・グループワーク特論 ・ケースマネジメント特論 ・プログラムエバリュエーション特論 ・ソーシャルワークリサーチ特論 ・ケースカンファレンス特論 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク演習 	+	<ul style="list-style-type: none"> 福祉関係施設・機関や病院において指導的な立場となる福祉職 	合計 30単位	
モデル2		<ul style="list-style-type: none"> ・仏教と共生原理 ・ソーシャルワーク理論研究 ・社会福祉制度政策研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク特論 ・グループワーク特論 ・コミュニティワーク特論 ・ケースマネジメント特論 ・プログラムエバリュエーション特論 ・ケースカンファレンス特論 ・チームアプローチ特論 ・ソーシャルワークリサーチ特論 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク演習 		+	<ul style="list-style-type: none"> 行政機関等のソーシャルワーカー、社会福祉施設や地域包括支援センター・社会福祉協議会等のソーシャルワーカー 	合計 30単位
モデル3		<ul style="list-style-type: none"> ・仏教と共生原理 ・ソーシャルワーク理論研究 ・社会福祉制度政策研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークリサーチ特論 ・ケースワーク特論 ・コミュニティワーク特論 ・スーパービジョン特論 ・ケースマネジメント特論 ・ソーシャルアドミニストレーション特論 ・プログラムエバリュエーション特論 ・ケースカンファレンス特論 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク演習 			+	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉調査研究機関の研究員、国や都道府県が設置した社会福祉推進団体等の職員

■ 科目の概要

実践研究基盤科目群

仏教と共生原理

仏教における「共生」の原理を、個人の生き方、個人の社会との関わり方の原理として理解する。また、近代前史においては仏教思想を実践する一つの形として“救済”が行われ、近代国家形成以降の社会福祉事業の実践につながり、現代にまで連綿と受け継がれている側面がある。そこで、本講では、仏教文献の中から重要なものを取り上げて講読しつつ、「共生」という原理をもって、人間としての実存的課題、現代の社会(福祉)問題、さらに仏教思想の現代的意義、社会福祉思想との関連性を考察する。

社会福祉理論研究

社会福祉理論とは「社会福祉とは何か」を問うことである。現代社会においては、社会福祉の対象や支援、そしてそれを巡る社会や経済、政治や文化が多様化する中で、ますます曖昧になりつつある。そこで、本講では、「社会福祉とは何か－対象・機能・システム構成等－」について、政策にその本質を求めた大河内一男、孝橋正一、援助に特性を求めた竹内愛二、社会福祉固有の視点を打ち出した岡村重夫、運動論を展開した一番ヶ瀬康子、経営の観点から再構築した三浦文夫の諸理論を俯瞰しながら、今日的な福祉実践や政策の基盤となるロジックを検討する。また近年では、「地域を基盤」とした実践が主流化する中で、地域を基盤とすることの意味について、ソーシャル・インクルージョン等の考え方についても併せて考察したい。

ソーシャルワーク理論研究

ソーシャルワーク理論の実践への適応を基本命題とし、理論と実践との架橋的検証を行う。その際、マイクロソーシャルワークの対象を個人に焦点化するのではなく、個人－家族－所属集団(組織)－コミュニティの相応的視座にたって吟味する。また、ソーシャルワークの理論、学説史等についての文献を講読するとともに、対象の理解、援助の目的とそのプロセスについて、具体的な事例を念頭におきながら学びを進める。さらに、自らの実践現場で当面しているジレンマ、課題を明確にし、自らの実践の再構築を目指す方法を共に探る討論の場とする。

社会福祉制度政策研究

社会福祉政策・制度は、限りある資源をどのように適切あるいは効率的にサービス利用者のもとに配分するのかといった大きなテーマが存する。そこには制度・政策を設計する上での原理の次元と、そうした原理を元にして構成される供給・配分・利用の基本的設計の次元、そしてそのような制度・政策を設計する上での手続の次元がある。本講では、福祉多元主義や近年注目を集めている擬似市場について、具体的な制度や政策の内容を検討しつつ、先に掲げた 3 つの次元からそれぞれ検証を行う。

実践技能研究科目群

ケースワーク特論

ケースワークは、対人援助を行う上で最も基本的な援助の形態であるが、その基本はワーカー－クライアントとの「援助関係」の構築が重要となる。また今日、本人や本人を取り巻く物理的資源、経済的資源、社会的資源、人的資源など客観的に把握できる環境的な側面に焦点をあてて状況を改善する援助モデル(環境モデル)や人が生きていく物語と現実とのずれに着目し、クライアントの語りから、クライアントの置かれている問題状況に対するクライアント独自の主観的な捉え方に焦点を合わせる援助モデル(物語モデル)など問題状況に応じて様々な方法が行われている。本講ではこのようなケースワークにおける援助関係並びにクライアントに働きかける様々なパースペクティブやプロセスについて事例を通して検討を行う。

実践技能研究科目群

グループワーク特論

グループワークは、グループ(集団)のダイナミクスを意図的に活用して、個人の社会的機能や社会への適応力を高めるための援助技法である。本講では、人にとっての集団体験の重要性とグループダイナミクスについて基本的知識を確認した上で、グループワークの展開過程と具体的な方法と留意点等について検討する。また、特定の経験を共有する自助グループ(セルフヘルプグループ)、当事者組織についても取り上げる。

コミュニティワーク特論

地域社会の変質に伴い、さまざまな生活上の課題や困難を抱えつつも、地域(在宅)で自立した生活を営むためには、安全で安心できる生活圏域の確保が重要課題となっている。ソーシャルワーカーには、今後ますます地域を基盤とした支援を促進するためのアプローチが求められるであろう。本講では、コミュニティを基盤としたソーシャルワーク理論について学ぶとともに、地域の福祉ニーズの把握方法、ソーシャルサポートネットワーク(地域における社会資源)の活用・調整・開発、地域の包括ケアシステムの構築と実際等について検討することで、我が国の現状にあったアプローチのあり方について議論する。

スーパービジョン特論

"スーパービジョン"とは専門職としてのソーシャルワーカーを養成するためのトレーニング・プロセスである。スーパービジョンの理論と方法を段階的に実践的に学び、スーパーバイザーとして実践の場でスーパービジョンが展開できる技術を身につける。新人研修・実習プログラムの立案方法や指導の留意点を学習し、組織において後進指導の役割を担えるようにすることで、実際の社会福祉の現場において指導的立場として活躍できる力を養う。

ケースマネジメント特論

ケースマネジメントは、利用者の生活上のニーズを満たすため、セルフケアでは解決できない問題について、インフォーマルケアを調整し、フォーマルケア(適切な社会資源)と結び付ける手法であり、現在では、障害者・高齢者・児童・家庭等、対象を問わずにその範囲が広がってきている。本講では、ケースマネジメントの基本として、その目的と構成要素、実施上の留意点を理解等する。なお、実際の事例を使って、ケースマネジメントプロセスにおけるアセスメント、ケアプランについても検討する。なお、院生の関わっている事例も素材として取り上げる。

ソーシャルアドミニストレーション特論

医療・保健、福祉の組織は、ヒューマン・サービス組織であり、プロフェッション集団(組織)といえる。ソーシャルワーカーは所属する組織の影響・制約を強く受けることになるが、同時に、専門職として組織のフォーマルな権威関係から離れて、自らの専門性に依拠して仕事を進める側面を持っている。本講では、こうした医療・保健、福祉組織の特性と本質をふまえて、組織内のモチベーション形成、組織内の他の専門職との連携及び人・モノ・金・情報といった組織マネジメント、更には問題解決に適した組織のあり方、組織におけるアドミニストレーションについて、事例を取り上げて検討する。

プログラムエバリュエーション特論

近年、社会福祉の問題の解決に向けた個々の社会福祉実践や組織的な介入プログラムは、科学的な効果評価が求められるようになってきている。本科目では、社会問題の改善に向けた個々の社会福祉実践や組織的かつ継続的なプログラムについて、その改善を図り、より効果的な実践やプログラムに発展させていくことを目的とした評価の方法について検討する。具体的には、実践やプログラムの機能、効果を科学的かつ体系的に把握、評価、検討していくための方策について、社会調査などの科学的手法を活用しつつ、社会福祉実践に根ざしたアプローチ法の検討を行う。

実践技能研究科目群

チームアプローチ特論

ソーシャルワーク実践は、支援者たちのチームの力によって成り立っているといっても過言ではなく、チームアプローチは、領域を問わず重要な技術である。ゆえに、チームアプローチとそれを支えるチームワークの重要性は、専門職であれば誰もが認識し必要としている。しかしながら、実際にチームワークが実践に有機的に機能しているかとなると多くの課題を抱えていることも現実である。本講では、対人サービス組織の特殊性を踏まえつつ、小集団論を基盤にリーダーシップ・メンバーシップを理解した上で、チームワークを難しくする要因、チームワークを有機的に作用させるためのチームコンピテンシー等について、事例等も活用して検討する。

ソーシャルワークリサーチ特論

本講では、ソーシャルワーカーに求められるリサーチャー・プラクティショナーモデルに基づき、実践を通して、効果的なアプローチのエビデンスを構築できる人材となるために必要な知識を学ぶ。ソーシャルワーカーにとって必要な社会調査に関する知識を確認するとともに、いかにしてその技術をソーシャルワーク実践に活用するかを考察することを通して、ソーシャルワーカーに実装可能な知識として、社会調査の学びを深める。

ケースカンファレンス特論

ケースカンファレンスは、個別スーパービジョンのみならず、グループスーパービジョン(対象事例に関わるチームメンバー)においても最も多用される技法であり、ソーシャルワーカーが専門職としての力量を高めるだけでなく、その援助チームや集団・組織の教育・研修としても極めて有効である。本講では、実践現場でケースカンファレンスを行う場合の基本的な方法を学ぶとともに、院生が実際に関わっている事例を素材にしてケースカンファレンスを行うことで実践に活用できる力を涵養する。

調査研究指導科目群

ソーシャルワークリサーチ演習

ソーシャルワーカーには、理論実践の統合を目指し、当事者のニーズに合った援助技法や理論の開発・展開、新たな福祉制度・政策デザインの構築のための調査・研究力が求められる。本講では、社会福祉学研究の目的・特徴・範囲、研究倫理をふまえた上で、量的(統計)調査法、質的調査法を実践する基盤となる知識・技術を習得する。また、高度専門職として求められる実践と研究の両立に向けて、論文執筆のための企画(リサーチデザイン)、研究仮説の設定と検証、研究方法の適切性の吟味、先行研究の資料収集及び精査の方法等を学び、自らの研究計画を作成する。

フィールドワーク演習

社会福祉実践・研究は常に当事者視点と社会福祉実践現場に立ち位置を置くことが重要である。そのためには、現場の実際や当事者のニーズを実感しながら進めることが求められる。本演習では、院生個々の研究に即して自らのテーマを定めると共にテーマに従って研究フィールドを設定し、そこから得た知見や課題等を整理・分析を行うものである。なお既に職場等の研究フィールドを有している場合は、そのフィールドでの実践に関するスーパービジョンを行うことで、研究課題の整理・分析を行う。

特定課題研究演習／特定課題研究（研究指導）

自らの問題意識、研究テーマに従って、以下の3テーマから1つを選択して、研究成果としてまとめ、発表する。

- (a) 社会福祉実践に関する研究
- (b) 社会福祉実践に係る組織運営管理に関する研究
- (c) その他、社会福祉サービス・制度政策等に関する研究

なお、演習担当者の指導のもとに、具体的なテーマを設定して研究をすすめる。

■学費

学費	正科生	科目等履修生 ※4、※5	備考
入学金 (初年度のみ)	40,000 円 ※3	—	入学時のみ
研究指導料	80,000 円	—	年額
授業料 ※1、※2	33,000 円～	1 単位あたり 11,000 円	初年度
合計	153,000 円～	履修する科目数により異なります	

初年度納入金のみ武蔵野大学通信教育部指定学費サポートローンを利用することができます。

履修科目数による授業料の例

例 1) 必修科目 3 単位の他、選択科目 14 単位を履修した場合

必修 33,000 円 + 選択 11,000 円 × 14 単位 = 187,000 円

例 2) 必修科目 3 単位の他、選択科目 20 単位を履修した場合

必修 33,000 円 + 選択 11,000 円 × 20 単位 = 253,000 円

- ※1 … 1 年次必修科目 3 単位の最低金額。選択科目の履修科目数により変動します。(1 単位あたり 11,000 円 × 修得しようとする科目の単位数)。また、スクーリングを受講する場合は、別途、スクーリング受講料(1 単位あたり 7,500 円)が必要です。
- ※2 … 2 年目以降の学費は、授業料(1 単位あたり 11,000 円 × 修得しようとする科目の単位数)と研究指導料(80,000 円)の合計金額を納入します。
- ※3 … 本学通信教育部の卒業生は、入学金を免除します。
- ※4 … 科目等履修生が翌年度以降に正科生として入学する場合、既修得単位を上限 10 単位として認定されます。
- ※5 … 科目等履修生として修得した必修科目の授業料は、正科生 2 年次の授業料から 2 科目 8 単位分を上限として減免されます。